

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センタークムレ		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	56	(回答者数) 33
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		～ 令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 46
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・近隣に同法人の保育園があり、園との合同保育や合同行事など、インクルーシブに向けた取り組みを積極的に行っている	・インクルーシブの視点で行事の計画や打ち合わせ、振り返りを保育園と共に行っており、子ども軸で支援を考えるなど職員の支援の質の向上に努めている	・保育園との合同保育などを回数を重ねる等、更に活動の内容を深めていく
2	・中核機能強化の事業として、OTやSTによる評価を行い、専門職による機能訓練を支援に取り入れて機能向上に努めている	・専門職による機能訓練は個人やグループなど、個々の課題に合わせた取り組み方法にしている	・事業所内での専門職の取り組みに留まらず、法人に在籍する専門職が質の向上を行い、法人内外に捉われず専門職の更なる取り組みを拡大していく(中核機能強化として)
3	・ICT(ケアコラボ)を利用して、家族への児の情報提供などがスムーズに行えるようにしている	・ケアコラボでは家族だけでなく、本児に関わる関係機関とも情報の共有が行えるようにしている(個人情報含め)	・併用している事業所や関係機関を含めて、個人の様子を更に分かり易くなるようツールの活用をして、課題やそれに必要な情報を集約していく

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・近隣に成人期の事業所が少ない為、家族が成人期以降の(20歳を見据える)イメージを持つことが難しい	・就労など我が子の働くイメージが湧かない為、保護者の不安が募っている	・成人期に向けた家族勉強会や事業所見学会などを企画して我が子の20歳イメージが持てるようにしている
2	・男性保育士が居ないため、支援の方法や内容などにバリエーションを持つことが難しい。	・屋外遊び、運動など体をしっかりと使った遊びなどの展開ができ難い	・大学などへのアプローチで、男性保育士などを積極的に採用していく
3	・親子棟が長年の劣化で、トイレの故障や雨漏りなど、環境面で不都合がある	・耐震調査を実施していない事で修繕などが遅れている	・耐震調査や大規模修繕などの実施を進めて行く